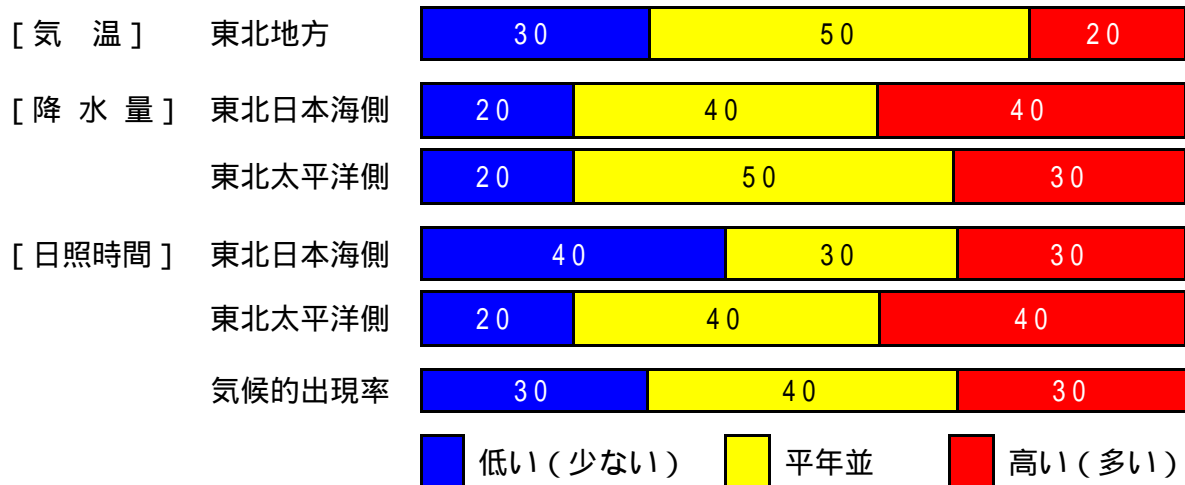


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：3 月 25 日～4 月 24 日）

平成 12 年 3 月 24 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]：東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は 30％です。「高い」の確率は 20％と小さい。

[降 水 量]：東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]：東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 40％です。次に大きい可能性は「平年並」と「多い」で、その確率はそれぞれ 30％です。

東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、この期間低気圧と高気圧が交互に通るでしょう。低気圧の通過後は一時寒気が入り、気温の変動が大きい見込みです。天気は東北太平洋側では周期的に変化し、東北日本海側では曇りや雨又は雪の日が多いでしょう。

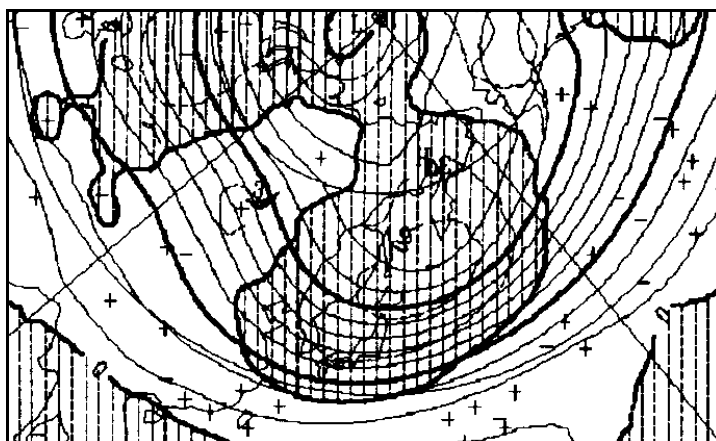
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北日本海側で約 19 日、東北太平洋側で約 21 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 期間の中頃に気圧の谷が通り、全般に天気がかくずれるでしょう。その他（3月25日～3月31日）の日は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雨か雪の日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約5日です。
- 2 週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、低気圧の通過後は一時寒気がはいる見込みです。天気は東北太平洋側では周期的に変化し、東北日本海側では曇りや雨又は雪の日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約5日です。
- 3～4 週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、低気圧の通過後は一時寒気がはいる見込みです。天気は東北太平洋側では周期的に変化し、東北日本海側では曇りや雨又は雪の日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約8日、東北太平洋側で約9日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

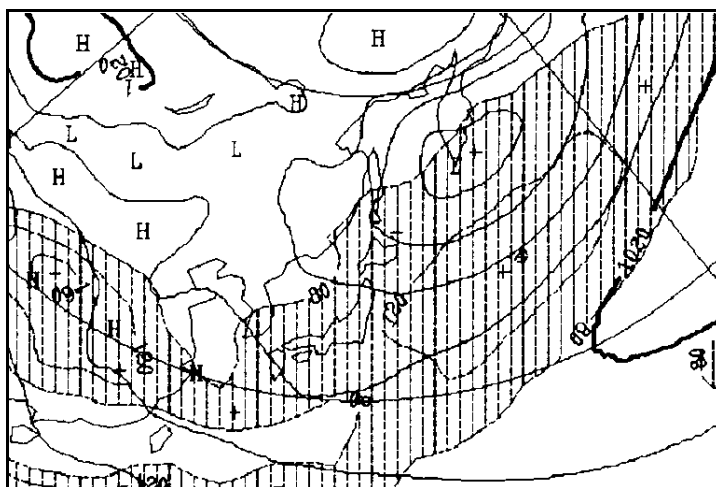


月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均では日本付近は負偏差に覆われる。日本付近は気圧の谷となっており、天気は周期的に変化するが、一時寒が入る見込み。

週別（図略）でも、日本付近は期間をとおして負偏差に覆われる。



月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

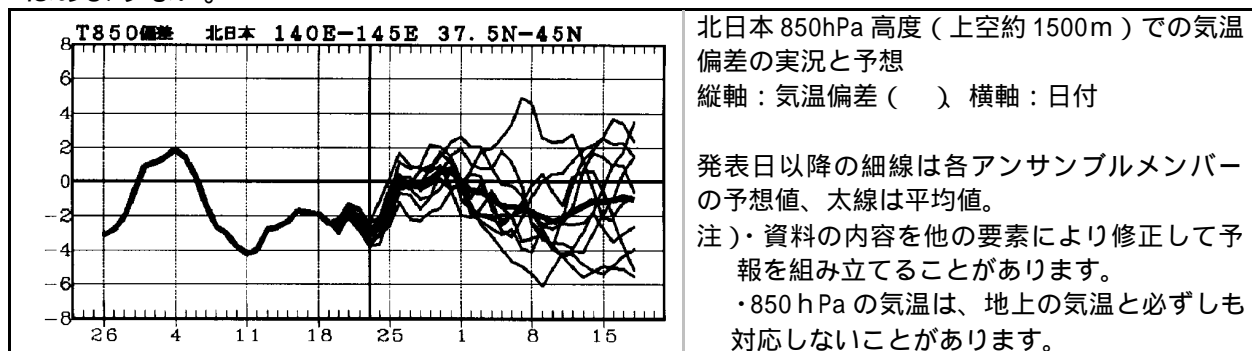
月平均でみると、大陸には高圧部、カムチャッカ半島には低圧部がある。しかし、東北地方付近の等圧線は東西に走っており、冬型の気圧配置にはなりにくい。このため天気は周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時寒気の南下がある見込み。また、日本付近には降水域が東西に広がり、本州南岸沿いに比較的明瞭である。

週別（図略）でも、月平均と同様な特徴を示す。ただ、3～4 週目の降水域は日本付近に明瞭にかかっている。

3．北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目前半を低極にその後上昇、2 週目に下降するがばらつきが大きい。期間を通しての信頼度は普通程度だが、後半の信頼度は小さい。

なお最近の実況では、東北地方の地上気温平年差は、北日本 850hPa の気温平年差が負偏差の場合は 2 度程度高めに推移している。ただし、正偏差の場合は地上気温と 850hPa 気温の差はあまりない。

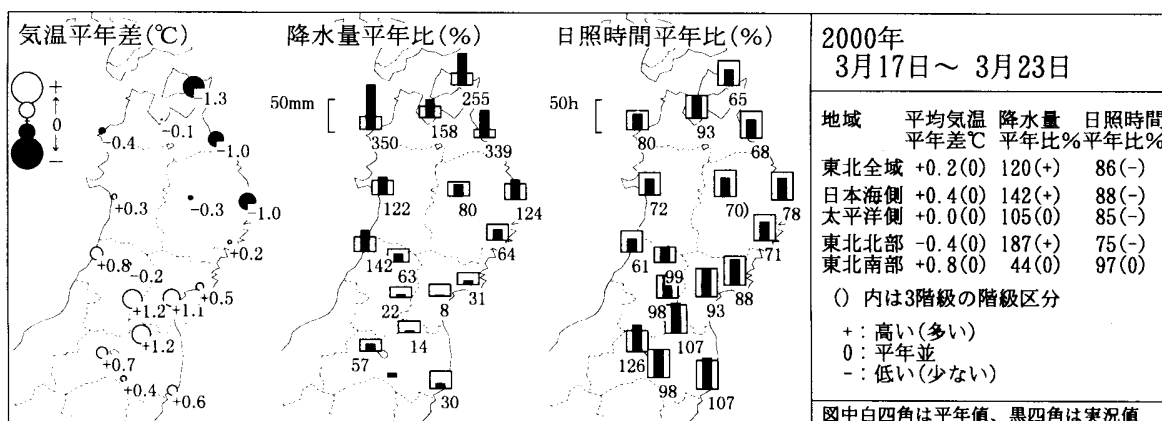


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4．最近 1 週間（3 月 17 日～3 月 23 日）の天候の経過

この期間、低気圧が周期的に通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側は雨や雪の日が多く、東北太平洋側の天気は周期的に変化した。

平均気温は、東北地方で平年差+0.2℃と平年並。降水量は、東北日本海側では平年比 142%と多く、東北太平洋側では平年比 105%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比 88%と少なく、東北太平洋側でも平年比 85%と少なかった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）